

令和6年2月9日

保護者・生徒の皆さま

大阪府立 港 高等学校

令和5年度 学校教育自己診断 総括

<数値分析> (〇〇↑↓は昨年との比較)

*生徒について

- ①ほぼすべての項目で R4 よりもアップしている。ただし、R5 年度より「わからない」という選択肢をなくしている事の影響を考える必要がある。
- ②アップしているが、元々の肯定率が低い部分について精査する必要がある。
 - 「A 港高校へ行くのが楽しい」75% (4 ↓) (唯一のダウン項目)
 - 「B 港高校の生徒であることに誇りを持っている」65%
 - 「G 港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている」70%
 - 「H 卒業後に社会人として困らない様に、先生が行っている学校生活でのルールやマナーについての指導には、納得できる」75%
 - 「M 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」72%
- ③生徒指導面について、学校の指導・対応が適切に改善されたと考えられる部分も多い。
 - 「I 生徒指導について、先生は協力して一致した指導に当たっている」83% (15 ↑)
 - 「L 健康や安全、防災等について考える機会がある」88% (19 ↑)
 - 「O 先生はいじめについて自分たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」88% (30 ↑)

*保護者について

- ①全 17 項目中アップが3項目にとどまる。(横ばいは2項目)
- ②学校の HP の更新について、および掲載内容について改善する必要がある。 ※記述
 - 「C 港高校の HP (ホームページ) を閲覧することがある」37% (2 ↓)
- ③子どもが困っていることに十分対応できていないと思われると同時に、生徒の受け止めとの差について、丁寧に分析する必要がある。
 - 「M 学校はいじめ(疑いを含む)について、子どもが困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」41% (10 ↓) ⇨生徒「O」の結果88% (30 ↑)との差
- ④学校の危機管理体制が保護者に十分伝えていくように、周知方法など改善していく。
 - 「P 地震や台風などの危機管理について、学校の対応を理解している」66% (10 ↓)

*教職員について

①回答率が低い。88%（17↑）

②肯定率が低い項目（60%以下）について、その背景・原因を確認し次年度に改善を図る。

「F 教科会において、指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」

60%（5↑）

「M 教員の間で、生徒への接し方や生徒指導の方法について共通理解できている」

58%（7↑）

「Z 学校運営について教職員の意見が反映されるような仕組みがある」53%（15↑）

「AB 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」49%（9↑）

③27項目中24項目でR4よりもアップしている。ただし生徒と同じで、「わからない」という選択肢をなくしている事の影響を考えて判断する必要がある。

<記述を含めた総合分析>

*記述において、本校の教育活動に否定的な意見もみられるが、まずはアンケート結果を肯定的に受け止めたうえで、改善すべき点を見つけていく。

*生徒指導について、生徒（保護者）に十分伝わり切れていない面が散見される。伝え方や説明について、よりよい内容にバージョンアップしていく必要がある。と同時に教職員間での情報共有の不十分さについても意見があり、今後、教職員の共通理解について改善していく必要がある。

*HPの内容・更新については、本校の保護者・生徒向けだけではなく、中学生やその保護者に向けた宣伝の意味もあることから、改善策を検討していく。

*授業について、指導方法のアップデートやICT機器の効率的な活用をさらに模索していき、教案の相互利用などを考え、時間外労働を少しでも減らしていけるよう、教科会の充実を図っていく必要がある。